



水耕栽培を実施する農家として子ども食堂との連携や、農場での不登校児の受け入れを経て、車椅子での作業に特化した農場を設立。各所との幅広い連携により、多様な人材の就労の場、交流の場の確保を目指す。

基本情報

- 所在地：沖縄県沖縄市
- 団体名：うりずんファーム
- 選定表彰：
 - ・平成25～令和2年 中部ファーマーズマーケット生産量No.1（JAおきなわ）
 - ・平成30年 JAおきなわ青壮年大会（青年の主張発表の部）最優秀賞 同九州大会 日本農業新聞賞
 - ・令和3年 毎日農業記録賞 優秀賞
 - ・ノウフク・アワード2021フレッシュ賞
- 主力商品：
 - 葉物野菜、低カリウム野菜等
- 取得認証等：令和元年 認定農業者

取組の概要

- 平成24年に就農し、水耕栽培を実施していたが、令和3年に車椅子に特化した農場ウィルチャーファームを設立。
- ハウス内での車椅子目線の導線は健常者では見つけにくいいため、「障害者就業・生活支援センター花灯」の協力のもと、身体障害者の職場体験を実施。補助する者が居なくても作業できるシステムづくりを実施。
- 沖縄の大きな課題である子どもの貧困の解決に寄与すべくファーマーズマーケットと共に子ども食堂への野菜の提供に取り組み、子ども達に農産物の生産から出荷までの過程を教える取組を継続して実施。
- 腎臓を患った方向けの低カリウム野菜の販路開拓を実施。
- ウィルチャーファーム設立と併行し、就労継続支援サービスを行う「NPO法人大夢」と連携開始し、農場拡大で増加した作業を委託。
- 高等特別支援学校の職場体験を受け入れ、2週間の実習期間中に野菜の原価計算ができるまでに指導。実習生の自信に繋げている。
- 農場で不登校児を受け入れ、社会との接点を作る手助けを実施。



車椅子（＝ウィルチャー）の作業に配慮した農場

体制図



取組の成果

- 障害や生きづらさを抱える方の出来ることを増やし、作業を担ってもらうことで、経営者として新たなチャレンジを行う時間的余裕ができ、経営規模の拡大が可能となった。
- 各所との連携を通じて販路拡大に繋がっている。
- 営農開始(平成24年) ⇒ 令和2年の推移

就労障害者数	0 人名	⇒	8 名
売上高	6,000 千円	⇒	22,000 千円



子ども食堂との農産物販売の様子

所在地 ▶ 沖縄県沖縄市池原3232-2

連絡先 ▶ E-mail: urizun1852@gmail.com

【取組のプロセス】

東日本大震災を契機に沖縄へ戻り営農を開始

平成24年

沖縄県で大きな社会問題となっている子どもの貧困へのアプローチ

平成30年

車椅子の義父が農場を訪れたこともきっかけとなり車椅子に特化した農場づくりを決意

令和元年



車椅子でも快適に作業できるよう工夫

農場拡大に伴い作業が増加したことで福祉施設との連携を開始

令和3年

障害者就業・支援センターからの紹介により障害者雇用している精肉店と連携し商品開発

今後の展望

きっかけ

子ども食堂との連携や、農場での不登校児の受け入れを経て、義父が車椅子であったことなどから、高付加価値野菜を身体障害者と共に作りたいと考え、車椅子に特化した農場「ウィルチャーファーム」を開設

高等特別支援学校の職場体験、不登校児の受け入れの取組を開始

- 高等特別支援学校の2週間の職場体験の受け入れを、平成30年から年2回継続して実施。2週間の実習期間中に、野菜の原価計算ができるまで指導。生徒の自信に繋がっている。
- 令和元年頃からは、沖縄市職員を介して農場での不登校児の受け入れを開始。登校は難しくても農場には来てくれたことから、中学校と連携して卒業・就活の手助けを実施。



子ども食堂との連携

子ども食堂と連携して高付加価値野菜を栽培

- 令和元年、地元農家と子ども食堂に食材を届ける取組を行ったことをきっかけに、週1回、子ども達に野菜の生産から販売までのプロセスを教える取組を継続して実施。
- 子ども達とともに腎臓を患った方向けの低カリウム野菜を栽培しており、販売も委託。



子ども達と栽培する低カリウム野菜

車椅子に特化した農場を開設、福祉施設への作業委託も開始

- 令和2年、車椅子に特化した農場の開設を目指し、障害者就業・生活支援センターの協力のもと、車椅子の方の職場体験を実施。令和3年4月ウィルチャーファームを設立。
- ウィルチャーファーム設立と併行し、令和3年8月より就労継続支援事業所からの施設外就労として、週2回8名に野菜の出荷調整作業等を委託。
- 障害者雇用している地元精肉店と連携し、老犬用ドッグフードを開発。
- 売上高は、平成24年の営農開始から令和2年には約3.6倍に、農地面積は約1.5倍に増加。また、各所との連携の効果で、生産物のP Rや販路拡大にも繋がっている。



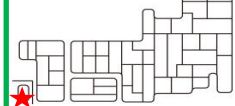
バリアフリー化した農場での職場体験

車椅子の障害者が健常者に農業を教えるなどの幅広い交流を目指す

- 県外の修学旅行生の農業体験や、沖縄市農業青年クラブと連携し、コロナ禍で疲弊した医療従事者親子の収穫体験を実施。
- 今後も各所への農業体験を継続し、いずれは車椅子の方が健常者に野菜の作り方や障害を持つことによる制限等を教える観光農業に取り組み、様々な立場の方が交流できる農場を目標としている。



精肉店とコラボ開発したドッグフード



水耕栽培による葉物野菜の通年栽培を通し、離島における野菜の安定生産体制の確立に加え、障害者の安定雇用を実現。誰もが安心して暮らせる地域社会の構築を目指す。

基本情報

- 所在地：沖縄県宮古島市
- 団体名：社会福祉法人 みやこ福祉会
- 選定表彰：
 - ・平成30年障害者雇用優良事業所
(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構
理事長 努力賞
 - ・令和元年沖縄総合事務局ディスカバー
農山漁村の宝選定
 - ・ノウフク・アワード2022 チャレンジ賞
- 主力商品：
 - 葉物野菜（サラダほうれんそう等）、
メロン等
- 取得認証等：－

取組の概要

- 夏場の暑さの影響による減収や、荒天による船の欠航などが起こると、島内の葉物野菜が不足していたが、就労継続支援A型事業所「野菜ランドみやこ」での葉物野菜の安定生産体制を構築したことで、常時安定価格で入手できる野菜として地域の食のニーズに応え、障害者の安定雇用も実現。
- 作業行程ごとに視覚的に理解できる写真パネルを利用したり、誰でも簡単に作業できる道具を活用する等、障害者が安全に効率よく作業できるよう工夫。
- 規格外の野菜は、グループ内の就労継続支援B型事業所「レストラン太平山」で食材として提供。就労訓練の様子が見えるようにし、地域交流や啓発の場として活用。
- 大玉トマトを栽培していた就労継続支援B型事業所では、コロナ禍での需要減少を踏まえ、令和2年から贈答用としての需要もあり付加価値の高いメロン栽培に切り替えて栽培を開始。



作業効率・安全性を考慮した作業ルール 作業性を工夫した播種パネル



レストラン太平山



メロンの栽培状況

体制図

社会福祉法人
みやこ福祉会

みやこ学園（就労継続支援B型）

室内、園芸、出向、メロン

アダナス（就労継続支援B型）

パン工房、レストラン

野菜ランドみやこ（就労継続支援A型）

葉物野菜



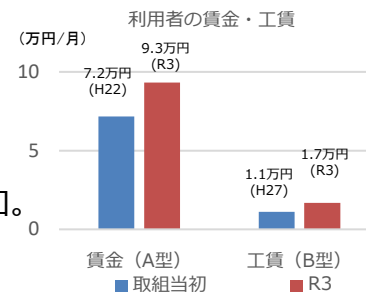
葉物野菜の栽培状況



アダナス外観
(レストラン、パン工房)

取組の成果

- LED照明やソーラーパネル導入による低コスト栽培により収益を伸ばし、全国平均を上回る賃金・工賃を実現。
- 農業に関わる障害者数は、取組当初の18名(平成22年)から23名(令和3年)に増加。
- 様々な団体の視察を受け入れる等、沖縄県内での農福連携の広がりに貢献。



所在地 ▶ 沖縄県宮古島市平良字下里3107番地243

連絡先 ▶ TEL : 0980-73-7770 E-mail : miya-gaku@cronos.ocn.ne.jp

ウェブサイト ▶ <http://www.miyakofukushikai.jp/>

【取組のプロセス】

島内には働く場や入所施設が乏しく、障害者が在宅を強いられている状況

平成13年

きっかけ

島内で暮らす障害者の働く場の確保と野菜の安定的供給という地域ニーズに応えるため、周年栽培可能な野菜の生産を開始

福祉的就労から一般就労への移行に結びつけるため、A型事業所の設置が急務

障害者の地域での就労を可能にし、地域での生活を支援

- 平成13年、島内での養護学校卒業後の就労が難しい中、障害者の働く場の確保のため、社会福祉法人として発足、島内初の知的障害者通所助産施設「みやこ学園」を開園。
- 在宅障害者や保護者からのニーズに応えるため、平成16年に分場アダナスを開所。

島内で常時手に入る新鮮な野菜へのニーズ

平成22年

「野菜ランドみやこ」を開設、葉物野菜の周年栽培を実現

- 作業能力はあるものの一般企業に就労出来ない方を雇用する就労継続支援 A 型事業所の設置運営が急務であると考え、平成22年に「野菜ランドみやこ」を立ち上げ。
- 当初は、宮古島の気候を活かした農業を検討していたが、作業時期の偏りや他の農家との競争を考慮し、葉物野菜やトマトの養液栽培による周年栽培を実現。
- 平成27年には、福祉的就労の工賃アップのため、個々の能力が十分発揮できるよう 構造化された作業環境と採算性の高い栽培システム(ポットファーム)を整備した「トマト ランドみやこ」(B型事業所)を設立、大玉トマトを栽培し県内大手スーパーへ出荷。

社会福祉施設等施設整備費(厚労省)、障害者作業施設設置等助成金(JEED)を活用し、野菜ランドみやこ等を開所

福祉的就労の工賃アップの必要性

平成30年

「レストラン太平山」オープン、地域の方との交流の場を提供

- 平成30年、地域や法人で生産している野菜を食材とした料理を提供する「ビュッフェレストラン太平山」(B型事業所)をオープン。接客員と客の関係で地域交流の場を生み出すほか、普段障害者の方と触れあう機会のない地域住民の障害への理解が深まった。

社会福祉施設等施設整備費(厚労省)を活用し、アダナス施設を整備

令和2年

コロナ禍の需要の変化を受けメロン栽培を開始、ブランド化を目指す

- 令和2年、トマトランドみやこを「メロンランドみやこ」に変更。コロナ禍の影響で出荷が滞っているトマトに代わり、贈答品としての需要が期待できるメロン栽培を開始。
- 法人の設立から令和4年で21年を迎え、事業所は6カ所に利用者は100名に拡大。農業に携わる障害者数も、当初の18人(平成22年)から23人(令和3年)に増加。
- 低コスト栽培などの工夫により収益を伸ばし、県平均を上回る賃金・工賃を実現。

農水省の農山漁村振興交付金(農福連携対策)を活用し、育苗施設のLED照明等を整備

今後の展望

障害者のニーズを受け止め、日本一住みやすい宮古島を目指す

- 障害をもつ方やその保護者が安心して住める地域社会の構築のため、本人の「こうしたい」「こうきたい」をニーズと受け止め、目に見える形で地域の環境を整備していく。
- 「この島で生まれてよかった」と実感できるように地域全体と協力して障害者を支援し、小さな宮古島が日本一住みやすい島となるよう、引き続き取り組んでいく。



野菜ランドみやこのみなさん



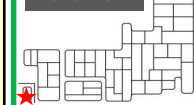
収穫作業の様子



苗テラス(育苗施設)



メロンランドみやこのみなさん



障害者を含むすべての人がありのままで笑顔になれるコミュニティづくりを目指し、無農薬、無肥料、無化学肥料の自然栽培で野菜や果樹を生産するほか、国内では珍しいバニラビーンズの生産も手掛ける。

基本情報

- 所在地：沖縄県中頭郡北中城村
- 団体名：合同会社ソルファコミュニティ
- 選定表彰：－
- 主力商品等：ローゼル、人参、玉ねぎ、バニラ、オクラ、バナナ
- 取得認証等：－



野菜の選別作業



農場での作業

取組の概要

- 就労継続支援A型事業所として、障害種別を問わず、スタッフ7名、利用者23名で北中城村及び中城村に農地8か所約3haを借り入れ、年間を通して季節の野菜・果樹など多彩な作物を栽培するとともに、荒廃農地を開墾してバニラや、コーヒー栽培にも着手しており、地域の中心経営体として位置づけられている。
- 障害種別で業務を分けず、個性を重視した仕事の割り振りで、楽しく働き仕事を好きになってもらうことにより、就労意欲の向上を図り、継続的な就労や、一般就労へのステップアップに繋がっている。
- 多品目の通年栽培を行い、年間を通じて安定雇用場の場を提供。雇用契約により最低賃金を保障し、経済的な自立をサポート。
- 平成30年から「沖縄農福マルシェ」を主催し県内の農福連携の広がりに貢献。



農福マルシェ



バニラ栽培



バニラの花



専門学校生の農業体験実習



農福連携野菜コーナー

体制図

合同会社
ソルファ
コミュニティ

TEAM VILLAGE

北中城村役場（農地借用の調整 他）
農業委員会

農福連携自然栽培パーティー全国協議会
（沖縄ブロックリーダー）

イオンモール沖縄ライカム
（農福連携の野菜販売コーナー）

取組の成果

○イオンモール沖縄ライカムやうるマルシェ、ハッピーモア市場などの直売所へ農福連携野菜として委託販売。県内スーパーなどへ無農薬野菜の販売先を開拓し、売上高は取組当初から10.8倍。

○年間を通じて作業を行い、年間支払賃金は取組当初から2.4倍。

	取組当初	令和4年	上昇率
売上高	1,575千円	17,011千円	10.8倍
年間支払賃金	6,515千円	16,022千円	2.4倍

所在地 ▶ 沖縄県中頭郡北中城村熱田277

連絡先 ▶ TEL:098-989-8880 E-mail:solfa.community@gmail.com

ウェブサイト ▶ <https://solfa.biz/>

【取組のプロセス】

平成24年

福祉に参入した農業生産法人に勤めた際、農業と福祉の相性がいいことに気づく

厚生労働省での農福マルシェをきっかけに沖縄でも実施しようと考えた

沖縄県障害者社会活動推進事業を活用して「沖縄農福マルシェ」主催

県外の洋菓子店から国産バニラビーンズの生産を打診され研究を開始

平成30年

内閣府沖縄振興特定事業推進費補助金を活用してバニラの栽培施設整備

10年後までに年間4tのバニラビーンズの生産の実現を目指す

今後の展望

きっかけ

介護職の経験から農業と福祉の親和性を感じ、人や環境にやさしい農業を通じたコミュニティづくりを目指す

合同会社ソルファコミュニティ設立

- 無農薬・無肥料の自然栽培による野菜・果樹の生産を開始すると同時に農福連携の取組も開始する。
- 平成25年3月に就労継続支援A型事業所「TEAM VILLAGE」を設立し、福祉事業に着手。



ソルファコミュニティのメンバー

「沖縄農福マルシェ」を主催

- 平成30年から農福連携に取組む福祉事業所や農業者と連携し「沖縄農福マルシェ」主催し、その後も共催の沖縄農福ラボの代表として毎年開催。県内の農福連携の広がり貢献（現在は、沖縄県に引継ぎ県主催で実施している。）。



ラッピングした送迎車

さらなる障害者雇用の拡大、収益向上のためバニラビーンズの栽培に着手

- 令和元年度から5年間に内閣府沖縄振興特定事業推進費補助金を活用して「おきなわ産バニラビーンズ生産体制整備事業」を実施し生産体制の整備を図る。
- 令和4年には、バニラの主産地であるマダガスカルで農場及びキュアリング（発酵）施設の視察を実施。



結実したバニラの莢

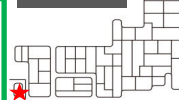
沖縄産バニラビーンズの栽培から加工まで行い、増産により国内産で安価で安心、安定的な供給を目指す

- 独自技術で発酵、乾燥させるキュアリング加工場を整備し、生産拡大による荒廃農地の解消、近隣農家へ苗の配布を行い県内全域での生産体制を構築する。
- 観光農園化を目指すと共に、農福連携で日本一の産地を目指す。



マダガスカル視察

更新年度：R5



地域内の福祉事業所と連携し、障害者が農作業の一部を担うことで人手不足を解消。他者との連携や個性を大切にし、多様な人材の受入れ・育成や産地づくりに取り組む。

基本情報

- 所在地：沖縄県南城市
- 団体名：株式会社 みやぎ農園
- 選定表彰：
 - ・平成26年 全国環境保全型農業推進コンクール 奨励賞
 - ・平成29年 沖縄県農林漁業賞 畜産部門
- 主力商品：
 - 平飼卵、露地野菜（しょうが、オクラ等）、加工品（マヨネーズ、ジンジャーシロップ等）
- 取得認証等：認定農業者



加工品(マヨネーズ)

取組の概要

- 約13,000羽の平飼い養鶏（約30a）と微生物資材を活用した露地栽培（約60a）、約80戸の契約農家から出荷される農産物の加工・販売等を実施。
- 地域の就労継続支援A型事業所から、精神障害をもつ利用者を中心に10名程度を施設外就労として受入れ、選卵作業や農産物の袋詰め、畑の除草作業を担っている。
- 作業行程を細分化し、音に敏感な障害者を養鶏場から農産物出荷場に配置換えする等、得意分野を継続的に作業できるよう工夫。
- G A Pの考えを取り入れ、整理整頓を心がけ障害者も作業し易い環境づくりに努めている。
- 自社だけでなく、地域の農家と福祉事業所のマッチングの取組により、障害者に安定した仕事と施設外での交流機会を提供。
- 地域の放課後デイサービスに活動場所（ユニバーサル農園）の提供を試行しており、農業を楽しむことで将来的に農業への就労に繋がるきっかけづくりに取り組んでいる。



農産物袋詰め作業

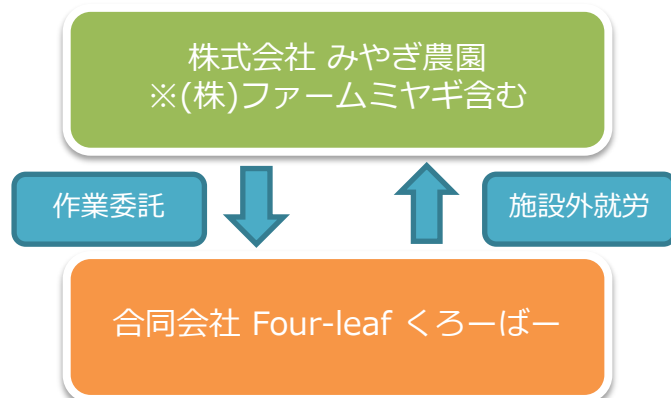


卵の選別作業



出荷される農産物

体制図



取組の成果

- 障害者に作業の一部を分担することで人手不足が解消、社員が養鶏や食品加工に集中できるようになった。
- その結果、高い技術を維持し、契約農家への営農指導や人材育成の他、JICA事業でのブータンへの養鶏技術移転等の多様な取組を実施。

○取組当初(平成29年度) ⇒ 令和3年度
 就労障害者数 3名 ⇒ 10名
 耕作面積 32a ⇒ 60a



ブータンの鶏舎

所在地 ▶ 沖縄県南城市大里字大城2193番地

連絡先 ▶ TEL：098-946-7646 問合せフォーム： <https://www.miyaginouen.com/contact>

ウェブサイト ▶ <https://www.miyaginouen.com>

【取組のプロセス】

昭和63年

「毎日の暮らしに
おいさと幸せ
を」をコンセプト
に、地域に根ざし
た農業を開始

農水省の「農の雇
用事業」活用によ
る人材育成や、
「中山間地域所得
向上推進事業」を
活用して地域活性
化に取り組む

畑の問題を見える
化、何をすべきか
を示すため、GAP
を推進。日本生産
者GAP協会のGAP
審査員の資格を2
名が取得

教育機関と連携し
た人材確保・育成
に取り組む

地域農家と福祉施
設とのマッチング
の取組を開始

JICAの「草の根
技術協力事業」を
活用し、有機農業
を推進するブータ
ンでの鶏卵の生産
性を上げるため、
「微生物を活用し
た養鶏農家育成事
業」を開始

平成29年

令和元年

今後の
展望

きっかけ

職員だけでは人手が不足していたところ、地域に就労継続支援A型事業所を運営する法人が設立されたことをきっかけに、障害者の受入れを開始。

近代養鶏とは別の方法を模索し、平飼い養鶏をスタート

- 昭和63年、鶏をケージに入れない平飼いにより養鶏をスタート。
- 創業者（現会長）が試行錯誤を重ね、国内の平均的な養鶏場での飼育羽数より圧倒的に少ない羽数での平飼い、自家配合した発酵飼料、微生物資材を用いて鶏糞を堆肥化させた鶏舎の床等の工夫により、臭みのなく安心安全な美味しい卵を追求。
- 平成20年に法人化、沖縄県認証特別栽培確認事業所として農家の栽培履歴の確認開始。
- 平成25年、農の雇用事業（農水省）を活用した新規就農者の育成を開始。多様な人材による産地づくりや地域の活性化に積極的に取り組む。



平飼い養鶏



出荷される卵

地域の就労支援A型事業所から障害者の受け入れを開始

- 当時、野菜の出荷作業にあたり、職員だけでは人手が不足していたところ、市内に設立された就労継続支援A型事業所を運営する法人から障害者を施設外就労として受入れ、作業の一部を担ってもらうことで人手不足が解消。

地域農家と福祉施設のマッチング等、新たな取組の展開へ

- 養鶏の飼養管理の強化や、耕作地の作業の見直しに伴い、畑での作業委託を模索したが、現在は障害者に担ってもらう作業場所として地域の農家とのマッチングを開始。自社だけでなく、地域農家と繋ぐことで障害者に安定した仕事と施設外での交流機会を提供。
- JICAの草の根技術協力事業を活用し、ブータンへの養鶏技術移転を開始。



地域の農家

多様な人材と連携した地域に根ざした「美しいむらづくり」を

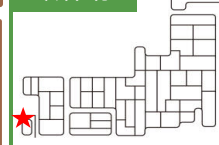
- 令和2年には生産部（養鶏、耕作）を分社し、(株)ファームミヤギを設立、グループ会社として施設外就労を継続。また、令和4年には新規作物の栽培管理、地域支援を担う(株)みやぎ農園AgriPlanを設立し、ユニバーサル農園の運営を試行的に開始。
- 働きづらさを抱える方の農業分野での就労や、産地の価値・魅力の向上等、農業の地域貢献の取組にも引き続き取り組んでいく。
- 持続可能な循環型農業を目指し、地域と一体となって地域に根ざした事業を行う「美しいむらづくり」構想の実現を目指す。



ユニバーサル農園の試行的取組

荒廃農地や廃校を活用し、「沖縄エリ蚕」の大規模養蚕を実施。繭の分別作業を障害者就労施設に委託し、スキンケア用品への加工や輸出等により工賃を向上。

農業経営体

沖縄県
今帰仁村

きっかけ

H
28
年

荒廃農地や廃校の利活用の課題解決に向けて一般的なカイコとは異なる沖縄エリ蚕の大規模養蚕からなるモノづくりをスタートし、障害者の活躍の場を創出。

人を耕す

- 養蚕の作業である、サナギと繭(シルク)との分別作業を就労支援B型事業所等と連携して行い、障害者の活躍の場を広げているほか、積極的に高齢者を雇用。
- 6次産業化により、「沖縄シルク」をスキンケア商品として加工し、ブランド化して輸出することで売上を伸ばし、障害者等1名あたりの平均工賃月額額は沖縄県の平均以上を維持。

地域を耕す

- 廃校を養蚕の作業場として活用。H25年から荒廃農地の再生に取り組み、現在、2.5haを「沖縄エリ蚕」の餌を栽培するほ場として借り受けることで、荒廃農地の解消に貢献。
- 高齢農家や村から農地を引き受けてほしいといった要望が増加。県内の特別支援学校と連携し、養蚕・農作業体験を実施する企画を考案するなど、地域内交流を推進。

未来を耕す

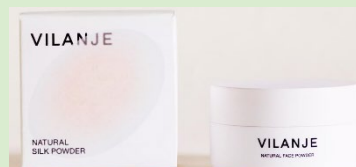
- 自社独自の技術により国内で唯一、「沖縄エリ蚕」の大規模養蚕に成功。採れた繭をパウダー化し、配合したスキンケア用品の製造販売のほか、「沖縄エリ蚕」のサナギを用いた機能性食品素の開発、動物用医薬品につながるタンパク質生産等の研究開発を実施。
- 荒廃農地の新たな利活用のため大手企業と連携。地球温暖化対策として、一般的な植生の20倍のCO2を吸収するとされるモリンガを植林。

基本情報

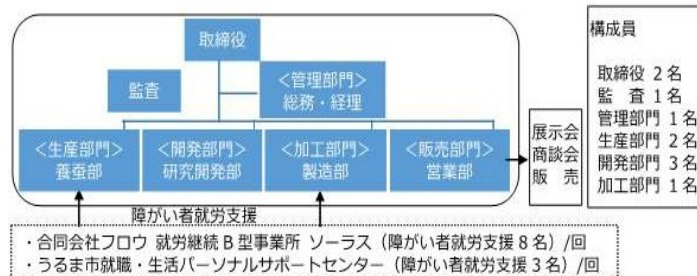
設立: H18年/農福連携取組開始: H28年

取得認証等: 6次産業化認定事業者

概要

主力商品
(加工品) スキンケア用品特徴的な取組
6次産業化、輸出

体制図



成果

平均工賃・賃金月額	障害者数	シルクスキンケア売上高	農地面積
工賃 1万円(H28) →4.4万円(R5)	利用 45人(H28) →72人(R5)	0円(H28) →1,998万(R5)	1.3ha(H28) →2.5ha(R5)
賃金 13.4万円(R5)	雇用 2人(R5)		

- 絹産業の非繊維分野への進出に加えて、6次産業化による「沖縄シルク」のブランド化及び輸出を行い、障害者や高齢者の活躍の場の創出、健康づくり、所得向上を実現。
- 特別支援学校の農作業体験や収穫体験の受入れ、学生向けの講義やシンポジウムの開催を通じ、農福連携の輪の広がりに貢献。

0980-56-3367/info@ukami.co.jp/

<https://www.ukami.co.jp/>

視察受入れ: 可/ 報道機関受入れ: 可

更新年度: R7.1